

Okinawa Times

30回ハハに勝は 2決 4年国日

沖縄空手の形学ぶ

世界武道祭に35カ国700人



剛柔流を中心に、35カ国から約700人の空手愛好家が集う第4回世界武道祭が、21日から県立武道館で開かれている。27日までの開催。26日はオープンセミナー

知念剛

（8月7-11日、広島競輪場ほか）

自転車

トラックでは望月誉（北中城）がポイントレース、阿嘉谷村（前京）がシキタイム、

ナーが行われ、参加者は小林流、昭平流、古武道の3パートに分かれて沖縄空手各流派の形を学んだ。写真。

昭平流のセミナーには約100人が参加。県内師範らの指導で基本形「三戦（サンチン）」に取り組んだ。講師の友寄隆宏さんは「簡単に見えて奥の深い形だが、さすがに有段者だけあつてのみ込みが早い」と評価。

イタリアのローマで道場を開いているタヒテ・インカールポーンさん（西蔵）は、剛柔流空手を始めて30年のベテラン。2度目の同大会参加に「世界各地の空手家、沖縄の各流派の師範との交流が楽しみ」と話した。27日は沖縄かりゆしアーバンリゾート那覇で、空手シンポジウムが行われる。

Il quotidiano giapponese Okinawa Times ha dedicato un'articolo al Budo Sai e la foto a margine dell'articolo ha immortalato Luisa Fumian e Cesare Serantoni del Dojo 'Scuola di Karate-Do' mentre praticano il Kata Sanchin sotto la guida di Sensei Tomoyose del Uechi Ryu.